

Ara Institute of Canterbury

(クライストチャーチ工科大学)

① 留学先・期間

○留学先

Ara Institute of Canterbury
(クライストチャーチ工科大学)

○NZ 滞在期間

R7年8月23日～9月14日



② 諸情報

○航空券の手配

私にとって今回が初めての海外渡航でしたので、まずはインターネット（Google フライトや Skyscanner など）で大まかな相場を調べた後、JTB や HIS といった旅行代理店を数店舗訪れ、航空券を予約しました。私は航空券のみを購入しました、観光ツアーなどを併せて申し込むことも可能です。みなさんも渡航期間や学校のカリキュラムと相談しながら、最適なプランを検討すると思います。私は、往復で20万円のものを購入しました。（行き）：羽田(JP)→シドニー(AUS)→クライストチャーチ(NZ)

（帰り）：クライストチャーチ(NZ)→シドニー(AUS)→羽田(JP)

○ホームステイ先

バテン先生が NZEAS という Ara 学生向けのホームステイ仲介機関の担当者 Owen さんと連絡を取ってくださり、手続きを進めてくださいました。Homestay application form を通して希望条件を伝えると、できる限りそれに沿った家庭を紹介してもらえます。食事は基本的にホストファミリーが用意してくれますが、私の場合、昼食を希望しなかったため、毎日十数ドルの出費が必要となり、少し痛い出費となってしまいました。そのため、お弁当を用意してもらうように申請しておく、費用を抑えることができると思います。

私は「10代の子供がいる家庭」、「ペット可」という希望を出したところ、2人の姉弟と4匹の猫がいる家庭に滞在させていただきました。ホストファミリーはとても親切で明るく、快適に過ごすことができました。初日には家の中をすべて案内してくださり、生活上のルールも紙でまとめて渡してくださいました。Wi-Fi も完備させており、不便を感じることはありませんでした。



もしホームステイ先で不具合があった場合でも、Owen さんや日本人スタッフのチェさんが毎週木曜日に学校を訪問して対応してくださいます。お二人とも気さくな方ですので、どんな小さなことでも安心して相談できます。

○Ara（語学学校）

バテン先生が Ara への入学手続きも、バテン先生が連絡を取ってくださり、スムーズに進めることができました。私は3週間、Araに通いました。授業は月曜～木曜の午前9時から午後3時まで行われ、**金曜日に授業はありません。**

渡航前にオンラインで語彙・文法・リスニングテストを受け、初日にライティングテスト・スピーキングテストを実施します。（試験というよりも、自己表現や会話を楽しむ程度のものでした）それらの結果を総合し

てクラス分けが行われ、CEFR のレベルごとにクラスが編成されるため、自分と同じぐらいの英語力の学生と学習できるようになっています。

私の滞在期間には、國學院大學、桜美林大学、亜細亜大学、関西大学の学生も一緒に学んでいました。クラスの内訳としては、日本人が10名、韓国人が1名、中国人が2名、タイ人が1名でした。

クラス替えの相談や昇給テストもあり、1週間ごとに新しい学生が入ったり、帰国される方がいたりします。また、クラスを越えた交流の機会もあり、様々な年齢や国籍、英語力の方と関わる中で、World Englishes を実感することができました。

具体的に授業は、午前と午後で内容が異なります。

午前中は教科書を使用して文法・語彙力・流暢さを高める活動や内容に富んでいました。教科書を使いつつも、ペアやグループでのスピーキング活動も多くありました。

午後の授業はより実践的な英会話を行う内容でした。例えば、レストランでの注文や、ホテルなどの予約、飛行機で預け荷物が届かないときの申告の仕方など、特定の場面での会話を練習する活動が多かったです。



以下に、平均的な1週間のタイムテーブルを添付しておきます。

	Monday	Tuesday	Wednesday	Thursday	Friday ~ Sunday
~9:00	朝支度・移動	朝支度・移動	朝支度・移動	朝支度・移動	休日
9:00~12:00	授業①	授業①	授業①	授業①	
12:00~13:00	昼休み	昼休み	昼休み	昼休み	
13:00~15:00	授業②	授業②	授業②	授業②	
15:00~	自由時間	自由時間	自由時間	自由時間	

○料金

ホームステイとAraの料金はすべてAraに振り込みました。私は郵便局から国際送金を利用しましたが、事前予約が必要で、手続き完了に最大で1か月ほどかかる場合があります。また為替レートも変動しやすいことを踏まえて、時間的・金銭的にも余裕をもって早めに手続きすることをお勧めいたします。なお、入金が確認されないと次の手続きに進めないため、特に注意が必要です。

○現地での交通手段

NZでは、基本的にバスで移動します。私は学校内でMetro Cardを作り、利用していました。乗車する際は運転席横の機械にMetro Cardをかざし、一律2.5\$が引き落とされます。2時間以内の乗り継ぎであれば追加料金がかからないため、休日に複数の場所を回るときにすごく便利でした。Metro Card残高のチャージ方法は、①Bus Interchange内のカウンターで行う、②運転手をお願いする、③ネットサイトで入金する方法があります。



また、日本と異なる文化として、下車する際に、運転手に感謝を伝える文化があります。

○学校訪問（教育学部生向け）

私は今回、貴重な機会をいただき、バテン先生のご友人が勤務されている特別支援学校とその奥様が勤務されている多国籍の生徒が在籍する公立学校を訪問することができました。言うまでもなく、NZの教育制度は日本とは大きく異なります。そうした中での学校訪問は私にとって大きな学びの機会になりました。特に、①異なる教育文化や価値観を直接知り、新たな視点を得られたこと、②その新たな視点を日本の教育現場にどのように生かし、子どもたちの成長のために自分は何ができるのかを改めて考える契機になったことが大きな収穫でした。



○気候

私が滞在した時期は、冬が明けて徐々に暖くなる春先でした。日本との気候差が大きいので、重ね着で体温調節することをおすすめします。特に、朝晩は日中の気温に関係なく冷え込むことが多かったため、ダウンジャケットやカイロがあると便利です。また、突発的に雨が降ることもあるので、折りたたみ傘など雨対策をしておくといと思います。

また、紫外線は冬でも日本より強いので、帽子やUVカットの日焼け止めを持参するとよいと思います。

○治安

全体的に治安は良いと思います。滞在中に怖い思いをすることはありませんでしたが、夜になると治安が悪くなりやすいとホストファミリーや先生方から注意を受けたので、夜間は一人で出歩かない方がよいと思います。

③ みなさんへ伝えたい「私なりの学び」

3週間の留学を通して、さまざまなことを学びましたが、特に印象に残ったのは、①積極的に挑戦することの大切さと、②自分のコミュニケーションに対する価値観の変化です。

①では、コロナ禍以降ずっと抱いていた「海外に行きたい」ことへの喜びや興奮を感じる一方で、自分の英語力に対する不安感や新しい環境への心配や緊張で頭がいっぱいでした。しかし、現地であらゆる活動や行事に積極的に参加・取り組むことで、日本では得られないような貴重な体験をすることができました。また、自分の英語力に関しても、自分なりに少しずつ自信がもてる部分が増えた一方で、課題も明確になりました。

②では、日本の「察し」の文化も大切ですが、やはり言葉にして伝えることの大切さを強く感じました。全く価値観の異なる相手には自分の「当たり前」は通用しません。賞賛も、感謝も、質問も口に出して伝えることがよりよい人間関係、コミュニケーションの第一歩だと学びました。

みなさんも、ぜひNZに行き、新たな自分と出会い、成長する機会を得てみてください。

